

第24期 日本学術会議 総合工学委員会 未来社会と応用物理分科会
第2回分科会議事録

1. 日時 2018年6月27日(水) 10:00~12:00

2. 場所 日本学術会議6階6-C(1)会議室

3. 出席者(敬称略)

松尾由賀利(委員長)、中野義昭(副委員長)、為近恵美(幹事)、渡辺美代子、金田千穂子、河田聡、桑野園子、小長井誠、財満鎮明、澤木宣彦、瀬山倫子、根本香絵、平尾明子、平岡佳子、藤原聡、堀勝、百瀬寿代、

4. 資料

資料1 前回議事録(案)

資料2 第24期・第2回総合工学委員会議事次第

資料3 第24期・第2回総合工学委員会議事録(案)

資料4 第24期未来社会と応用物理分科会名簿

資料5 第2回委員会準備会報告

資料6 WGの設置について

5. 議事内容

1) 前回議事録(案)の確認

中野副委員長により、議事録案の読み上げと確認がなされた。

文言の疑義については、発言者に確認の上、必要により修正を反映後、最終的には委員長に一任頂くことが承認された。

また委員長より、今後、議事録は委員会開催後8週間以内に公開するガイドラインが策定されたので、委員へのメールによる議事録案照会后、確定については、委員長に一任頂きたいとの提案があり、これが承認された。

2) 経過報告

①資料2、資料3に基づき、松尾委員長より、6月1日に開催された総合工学委員会について、以下のような議事内容が紹介された。

・吉村委員長、大倉副委員長から、総合工学委員会は非常に規模の大きい委員会であり、本委員会に参加するだけでは、必ずしも個々の委員の活動として十分ではなく、是非いずれかの分科会に所属して活動してほしいという発言があった。

この発言を受けて、新たに以下の連携会員の方から本分科会への参加希望があったため、この2名について、追加委員として認めたいとの松尾委員長からの提案があり、承認された。

高田昌樹連携会員(東北大学)、納富雅也連携会員(NTT)

※資料4の分科会名簿に追加委員候補として追記。

本分科会で承認後、親委員会での承認プロセスを経て、正式に委員として登録される。

・日本学術会議における SDGs に関する活動について、渡辺副会長より紹介された。委員会での紹介内容について、本分科会においても、簡単に説明され、特に、学術会議の提言が SDGs にどう関連しているのか、その結びつきが学術会議の HP にわかりやすく説明されているので、是非見て頂きたい、さらに改善点などがあれば、ご意見頂きたいとのコメントがあった。

②資料5の幹事団の間で議論された内容をまとめたメモについて説明があった。

「未来社会」へ向けたシンポジウムについて、2019年春の応用物理学会講演会会期中に特別シンポジウムを開催すべく準備することと、その後、シンポジウムの内容を反映させた提言を目指す方針が示された。また、今後の進め方について、次回の分科会委員会で、上記のシンポジウム講演者を含めた外部の有識者を招いて議論を深めるという方針が提示された。

3) 委員からの話題提供

今後開催するシンポジウムの方向性を議論するため、まずは今回、委員内部から話題提供により、委員会内での議論を活性化することとした。

まず、一人目として、小長井委員より、話題提供があった。小長井委員からは、東工大という都市部の大手国立理工系大学と、東京都市大という私立大学の両者を経験された立場から話題が提供された。東工大と環境が異なるが、最近東京都市大において活性化に向けた調査と変革が進められていること、分析結果からは論文引用数と実用化との相関は小さいという興味深いデータが得られたこと、最近は大学の研究力を厚みで評価する観点も出てきていることなどいくつかの課題が指摘され、これを基に議論がなされた。

二人目として、為近幹事より一国立大学の現状について、話題提供がなされた。旧七帝大には入らないが地方大学という立場でもない中間的な国立大学が現場で抱える課題について、運営費交付金がカットされ続ける中、基本的に定年退職した教員の補充はなく、自然減となっていることや、理工系においては、博士課程に進む学生が少なく、社会人ドクターの割合が増えていること、文系においては、修士課程にも日本人学生は非常に少なく、大学院生の8割が留学生となっていることなどが指摘された。

これらを基に、今期の議論の方向性について、各委員が意見を述べた

4) 今後の活動について

資料6に基づき、松尾委員長より「ワーキンググループの設置」について提案された。

春の講演会会期中に開催を企画するシンポジウムの企画を担当する「シンポジウム企画WG(仮称)」とそれを受けて今期の提言を目指して活動する「企画提言WG(仮称)」を設置すること、それぞれの取りまとめ役(主査)としてシンポジウムの企画を伊藤幹事、提言企画WGを為近幹事が担当することが提案され、承認された。各ワーキンググループのメンバーについては、基本的に主査を担当する幹事に一任する。

以上(為近記)